

# 域・学連携による「談合島」観光振興実証実験

## 概要

熊本県上天草市湯島地域は、自然、歴史及び農水産物などの豊富な地域資源を有しており、かつては漁業や観光業で栄えていたが、少子・高齢化に端を発し、担い手不足等の問題によって、地域が疲弊している。このような状況を踏まえ、域・学連携による本事業は、観光客の誘致による地域の経済振興(宿泊、物産販売・開発等)を目指すに当たり、島民と大学生等の協働により市場と観光資源の接点を創造する戦略のプランニング等の取組みを実施し、島の観光分野の資源(人・物)を再開発するもの。具体的には、地域資源の再開発に当たって、プランニング、実行、検証に至る一連の行程を大学・事業者と島民が一体となって取組むことで、島民に外部者と連携した事業の実施手法等を学ばせ、スキルアップを図るとともに、経済活性化につながる新商品の開発を行ったもの。この事業の実施を基に、将来は島民自らの積極的な取組みによる地域人材・経済の活性化を図ろうとするもの。

## 事業の内容

### 事業の内容

- 1 湯島のポテンシャル評価調査⇒学生へのアンケート調査、学生グループヒアリング、現地タウンウォッチング、学生による提案づくりワークショップの実施
- 2 景観グランドデザインのための調査⇒景観資源調査、グランドデザイン提案の住民ワークショップの実施
- 3 大学生のキャンプ・合宿の誘致⇒キャンプモニター、音楽サークルの合宿誘致、フェイスブックの開設、文化イベントのあるリゾート提案のワークショップの実施
- 4 夏休み短期留学児童の受入れ⇒海がめの浜で環境学習、絵本作りワークショップ、協同学習のプログラム開発の実施
- 5 コミュニティ・レストラン模擬体験⇒地元素材を使用した料理の開発(弁当、カレー)及びモニターツアーの実施

### 総事業費

10百万円

### ポイント

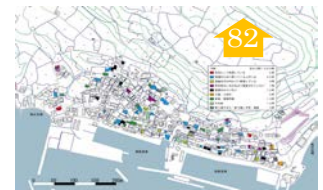
- ①観光客誘致のターゲットを島外の若者(大学生等)に絞り、大学生の合宿先又は島外の児童の環境学習のフィールドとすることによって、本地域の資源を再開発すること。
- ②島民と島外の学生等との協働による景観づくりを提案すること。
- ③シェフを招聘し、地元素材を使った新しい料理の開発を行ったこと。

## 事業の成果

本事業は、島民と島外の大学生等が連携して事業に取り組んだことから、島内に若者(大学生延べ51名、児童延べ22名)があふれ、一時的であるが、近年にはない活気が戻ったもの。加えて、本事業で開発した料理を使用した「コミュニティ・レストラン」を開設し、島外の者を誘客したことで一定程度の地域の経済振興が図られた。そのため、この取組みを通じて、島民の地域外交流への重要性の理解が進み、意識改革につながった。

また、島民が本事業を契機として、島民自らが島の将来を考え、島民が本事業の経験やノウハウ等をいかした地域の活性化に取り組む素地ができたことで、今後は、持続可能な島民による観光客誘致の企画等が徐々に実施されることが期待でき、将来的に島の定住人口の増加、経済活動の活性化が可能となったもの。

## 熊本県上天草市



熊本県上天草市

### 2 空き家、巨樹調査マップ



### 2 景観グランドデザイン 住民ワークショップの様子



### 3 大学生の合宿誘致 (音楽サークルの誘致)



### 5 レストラン等の事業提 案ワークショップの様子